(15) 社会 平成3年(1991年) 6月8日(土曜日) 世界日報

日韓トンネル

今秋から精密調査へ

福原JR総連委員長が顧問に就任

日本と大陸を海底トンネルで結び、全世界を高速道路網でつなぐ「国際ハイウェイ・プロジェクト」の一環として、建設への準備が着々と進んでいる「日韓海底トンネル」の実現を推進する民間団体「日韓トンネル研究会」（会長・佐々保雄北大名誉教授）の平成二年度研究調査報告会および第九回通常総会が七日午後、都内のホテルで長谷川峻元法相や野沢太三参議院議員の国会議員をはじめ、学者、土木建設業関係者ら約三百人が出席した。

報告会終了後に始まった通常総会では、新しく顧問に就任した福原福太郎・全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）委員長ら役員の改選案が採択されたあと、サンコーコンサルタントの持田豊副社長が、ドーバー海峡をくぐり英国とフランスをつなぐユーロトンネル建設（昨年十二月一日に貫通、一九九三年開業の予定）に技術顧問として直接携わった経験を生かして、「ユーロトンネルの現況と日韓トンネルの今後について」と題し記念講演。

掘りやすい地質ですでに実証済みの技術を投入したユーロトンネル建設は「自然の利点を最大限に利用して、それに合った施工法を採用したことが成功につながった」と分析。「国際ハイウェイ・プロジェクトでもなるべく早く自然と工法との最良の組み合わせを見いだして、それを根強く広く追求していくことが望ましい」と述べた。

また、同プロジェクトの実現には、歴史や文化の違う国がかかわるだけに、政治的や経済的、技術的そして地域感情的に数多くの障害が予想されるが、「全世界が協力し合って目的の達成に努力することが必要。むしろ、種々の問題を解決していく課程で創出されるであろう人類の知恵そのものが最も有為なものだと思われる」と国際協力の必要性を訴えた。

同プロジェクトは一九八一年十一月二十八日、韓国ソウルで開催された「第十回科学の統一に関する国際会議」（ICUS）で、世界基督教統一神霊協会の創始者・文鮮明師が世界恒久平和を築く計画の一部として提唱して以来、十年を迎えようとしている（研究会設立は八三年五月）。

日韓海底トンネルは、幅広い分野にわたり積み重ねてきた調査・研究がすでに、計画予想地域の陸上・海上両部門の概略調査はほぼ終了し、地質・技術両面において実現性が高いという調査結果が出た。

また、ユーロトンネルの成功や、昨年から今年にかけて日韓両国の首脳がこのプロジェクトに前向きな姿勢を示すなど、日韓海底トンネル実現の機運が高まってきている。

同研究会では計画提唱十年を機に、従来の部会制度を刷新。同プロジェクトをわかりやすく各界各層に啓蒙・PRする政策委員会と、過去の調査研究の成果を取りまとめ、今後の課題を明確にして対処する技術委員会を新設、再発足した。

今後は、プロジェクトを支援する超党派の国会議員連盟結成や国民に対する啓蒙運動の展開、日韓両国で報告会やシンポジウムを交互に開催するなど、政治・国民・外交レベルでの実現促進策を行っていく予定。

さらに、今秋には対馬から韓国に向けて調査坑を掘る予定で、今までの概略調査からルート上の精密調査という一ランク上の調査が始まる。「十年という時間を経て新しい段階に入った」と、同研究会関係者は話している。

日韓トンネル研究会の「第9回通常総会」で講演する持田豊・サンコーコンサルタント副社長＝7日午後、都内のホテルで